

# 令和7年度自己評価結果公表シート

R8年3月

幼保連携型認定こども園

金城幼稚園・保育園

## 1、評価項目の達成および取組状況

○前年度（令和6年度）の取組み

幼保連携型認定こども園 金城幼稚園・保育園

### 令和6年度 学校評価の取組み報告 ～ダイジェスト版～

【今年度の取組み状況】

**表1 園内実態**  
**1. 研修・研究への意欲・態度**  
①「研修会や研究会には自己課題を持って参加し、事前にその内容を確認したり自分なりの考えをまとめている」の項目について、全体的な評価は悪くなったものの「研修会への自己課題は内容を知らずにはしているが、自分なりの考えまでまとめている」「研修報告書の事前報告を忘れてしまうことがある」などの具体例を挙げて評価を低くしている職員がいた。  
②職員が学びたい必要と感じる研修とはりについてグループディスカッションを行った

**○グループディスカッションを通して**  
様々な研修の在り方に気づくことが出来た  
【園内研修】講師必要あり【例】個別支援について、健康、安全、乳児保育  
【園内研修】自分たちで企画【例】保護者対応、異年齢保育の連携、EIT、幼保連携  
【園外研修】園・保育向上（実務）、園運営、職員間の連携、製作  
【その他】例：園にとって必要な研修を精査する、職員が学びたい研修をリスト化する  
また、学びを有効的に実践するために出来ることのアイディアを出し合った

**表2 園外実態**  
**1. 研修・研究への意欲・態度**  
夏の日ご点検自己評価の改善案で評価が改善していたことがあり、実行できていないものに着目し、再度グループディスカッションを行った

**○グループディスカッションを通して**  
【Aグループ】  
①職員が外部で受講してきた研修内容で、②自分が職員に伝えたいと思った研修 ③他職員が受講した研修でより詳しく知りたいと思った研修について意見を話し合う  
④話し合った意見を分類して、研修内容を伝える範囲を「クラス内」「全体」「企画して園内研修」の3つの基準を作り判断できるようにする  
【Bグループ】  
①2歳児から3歳児クラスの進級に向けて1月から3月に職員が配慮すると良いと思う事について意見を話し合った

**改善案**  
・本園児：園児数が増えることにより、携わる職員が増え情報共有する機会が多い。何をどのように伝えたいか、情報共有の優先順位を作る  
・以上児：園児数が減っている中で、担任・副担任の職員配置が必要かどうかを考える。園児何人までなら1人で担任すべき人数か、1人担任+補助でクラス運営する方法について具体的方策を考える  
①「2歳児から3歳児クラスの進級に向けて1月から3月に職員が配慮すると良いと思う事」を表にし、2歳児の月案週案に挟むようにし、保育の中で意識して行っていく  
②今回のグループディスカッションで話し合った②について引き継ぎの資料作成時に使えるようなテンプレートを作成する→令和6年度から7年度の引き継ぎの際に活用する  
→改善点があれば修正し、令和7年度の引き継ぎ時に活用

**【学校関係者の評価】**  
・年中クラス とてもよく話が聞けていた。学習に繋がる  
・製作活動では時間差がでるが、活動終わった子への楽しいタイムで次の課題を示しており、子どもたちも集中を保ったままクラス活動が行われていた  
・年中児クラス 自分たちが1年間で行ってきたことを言葉で伝えるだけでなく数値化しており子どもたちにも伝わりやすかった  
・保育の中で天気や曜日など保育者が自然と英語を取り入れていた。  
英語教室で習っていることを普段の保育で取り入れており、素晴らしいと感じた  
・同じ園の中だが2歳から3歳に向けての保育者の配慮がこんなに細かくされている。素晴らしい  
・年中クラス 先生方へのプレゼントの気づくりを行っていた。例のために作るのかを一人ひとりが理解し、感謝の気持ちを持って作っていた  
・以上児と未満児と違いはあるが、保育者一人ひとりが子ども一人ひとりを丁寧に観察していると感じた

**表3 園内実態**  
**2. 園児の状況**  
①「2歳児から3歳児クラスの進級に向けて1月から3月に職員が配慮すると良いと思う事」を表にし、2歳児の月案週案に挟むようにし、保育の中で意識して行っていく  
②今回のグループディスカッションで話し合った②について引き継ぎの資料作成時に使えるようなテンプレートを作成した



## 2、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

昨年度の自己点検表を用いて見えてきた課題への取組み

「VI保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度」

①令和7年度 園内研修「職員連携について」

未満児：園児数が増えることにより、携わる職員が増え情報共有する機会が多い。何をどのように伝えようか、情報共有の優先順位を作る

以上児：園児数が減っている中で、担任・副担任の職員配置が必要かどうかを考える。園児何人までなら1人で担任すべき人数か、1人担任+補助でクラス運営する方法について具体的方策を考える

⇒この園内研修をすることで、次に記録や保育計画・振り返りについて順を追って園内研修で精査することで業務の効率化を図り、子ども達のよりよい成長発達へと繋げていくことができる

②「2歳児から3歳児クラスの進級に向けて1月から3月に職員が配慮すると良いと思う事」

を表にし、2歳児の月案週案に挟むようにし、保育の中で意識して行っていく

③今回のグループディスカッションで話し合った②について引き継ぎの資料作成時に使えるようなテンプレートを作成した

## 【1回目の自己点検・自己評価を通して】

### <7月の自己点検・自己評価の集計・分析結果>

#### Ⅶ「保育のあり方、3歳未満児への対応」保育者同士の協力・連携

「3歳未満児担当保育者全員が情報を共有し、クラスに関係なく、その場にいる保育者が適切な言葉かけや対応をするよう確認している」の評価が指導的立場と一般職員両方が低かった。3歳未満児クラスは担当する職員数が多く、また保育者の勤務時間も多岐にわたるため、情報共有のむずかしさが課題に挙がった。そこで、「情報共有」について話し合うこととした。

#### グループディスカッションテーマ

「なぜ情報共有(報告・連絡・相談)が必要か？」

#### 【Aグループ】グループディスカッションの内容

・実際に情報共有しなくてはならない内容をふせんに書き出し、その後、朝、昼、夕、お迎えの時間帯別に分けて貼り出した。→お迎え時に必ず伝える必要がある事として【怪我の報告・謝罪】【嘔吐や下痢の処理で出た衣類の持ち帰り】は口頭で伝える。また、【着替えの報告(排泄の失敗等)】【持ち物の持参依頼】についてはアプリを用いて伝えることを再確認した。また、多くの職員が関わる中で伝達漏れが起きないように必要な対策を考えた。(→改善策③)

・日常的な情報共有を確実に行う為のポイントとして《子どもが落ち着いている時に行う(おやつや食事中に全員が着席しているタイミング等)》《毎日同じ時間に行う》《口頭ではなく、紙面に残して伝える》を確認した。(→改善策②)また、前提として“些細なこととは思わず、どんな事も自分から発信する”という職員の意識も重要であることに気づいた。

・上司や、保護者に報告をする際にそれぞれが意識している事を出し合った。「〇個話があります。」「〇〇の話をしに来ました。」等と結論から話す方が良い場合や、時系列で話す方が良い場合があるが、その場面を見ていない人にも伝わるよう事前に話す内容をメモしたり、5W1Hを使って話す等、伝える側の意識が大切だと気付いた。また、保護者へ事故などの報告をする際には転倒した様子を実践したり、実物を示す必要もある。

・日常的な報告や連絡以外にもクラス会議や行事に向けて多くの情報共有をしているが、何のために情報共有をしているのかについて意見を出し合った。

① 保護者との信頼関係構築 ② 保育のやりやすさに繋がる(流れや個々の対応) ③ 事故予防、安心・安全な保育 ④ 全体をまとめていると見えない個々の様子を知ることで子どもの育ちに繋がるヒントやアイディアを得られ、保育者としてのスキルアップや保育の質の向上につながる ⑤ チームで保育をしているという感覚を得られ、やりがいに繋がる 等が挙げられた。

#### 改善策

① 担当が休みなどで代替え職員に保育をお願いする際、必要な情報をまとめるシートを作成し周知する。

② 保育者から保護者への連絡事項を確実に伝える為にする事

朝：ルクミーアプリの概要欄に記入済みの個人(子ども)の連絡事項を見終わったら、申し送り欄に自分(保育者)の名前と確認した時間を入力する。3歳以上児は玄関担当から担任への引き継ぎのタイミングで行い、未満児クラスは各職員が出勤後、保育に入る前のタイミングで行う。(3歳以上児はクラスに関わる職員が担任一人の為、名前の代わりに☑マークを入力する)

ぬくもり保育の時間：各クラスのチェックシートの様式を変更する。連絡を受けた人(記入者)、その情報を共有した相手や時間、保護者に実際に伝えた人が誰かが分かるようにチェック欄を設ける。

#### 【Bグループ】グループディスカッションの内容

① まずはそれぞれの立場から振り返り「なぜ情報共有が必要なのか」について考えを話した。→情報共有することで子どもの成長のために携わる周りの大人が連携する必要があることはもちろん、子どもや保護者との信頼関係やクラス運営、職員の関係づくりの為にも必要であることを再認識した。

② 現状、情報共有している事項を付箋に書き出し、情報共有の時間を朝・昼・夕とし、関わる対象者や緊急を要するものは何なのかにカテゴリー分けをして貼り出した。→時間では分けきれない事項、随時更新し最新の情報を共有すべき事項は何なのかを考え表にまとめた。

③ ②でカテゴリーに整理した事項を漏れずに職員間で情報共有をするため伝えるべき情報に気付く仕組み作りには何が必要か、どんなことが出来るかを提案し合う。→振り返りの時間での情報共有内容を整理し、共有する内容を明確にする事や、小さなことも報告し合う意識作り・関係を作る事などが挙げられた。提案された中で何が一番有効なのかを話しあった結果、共有すべき情報の目安をリスト化、視覚化することが良いのではないかととなった。

④ 共有すべき情報の目安リストを作成して取り組むためには、個々で報告の有無の判断基準がずれない様にすること、報告先の判断を間違わないようにする(誰に何をいつ報告する)ことなど必要、リストが最低限の基準であることの意識を持つことが重要であるなどの意見が出てきた。出た意見を改善策の実施に繋げていく。

### **改善策**

振り返りで共有すべき最低限の内容についてリスト化してみる(振り返り時間の目安として使用)

【今後の課題】今回の改善策を実施した次の課題として職員間の情報共有方法としてルクミーアプリ「個別連絡機能の活用」や以上児のルクミーアプリ「連絡帳機能の利用方法(保護者と園)」の見直しなどについて検討していきたい。

## **【2回目の自己点検・自己評価を通して】**

### **<12月の自己点検・自己評価の集計・分析結果>**

#### **I 「保育の計画性」**

自己点検自己評価をまとめて分析した結果、I「保育の計画性」②「園の方針や園長の考え方について園長や教頭、主幹保育教諭と話し合い保護者に説明できる」という項目の評価が低く、『考え方や方針を細かく話し合ったりする機会が無く、自信を持って説明することが難しい』という具体例を挙げている職員が多くいた。

園の教育方針や教育目標、園長の考え方について改めて聞く機会を作り、保護者に説明する自信を持つと共に、そのポイントを整理する事で具体的な保育内容や子どもたちの姿と関連付け日々の保育の計画→実践→振り返りに繋がれるようにする為。

#### **グループディスカッションテーマ**

「自信を持って園の教育方針や教育目標を伝えられるようになろう！」

#### **【A グループ】 グループディスカッションの内容**

園長より園の教育理念および教育方針について説明を受けた。まず説明の対象として、どのような相手を想定するかについて話し合った。その結果、「本園への入園を検討している保護者」対象の説明を想定し、グループディスカッションを進めていくこととした。

②本園の乳幼児教育理念を再認識し、保護者に教育方針や教育目標を説明する上で最も重要になるのは、園の「乳幼児教育目標」についてであると意見が一致した。

③乳幼児教育目標である「基本的な生活習慣」「規範意識の芽生え」「豊かな感性と創造性」のそれぞれについて、どのような保育内容が該当するかを考え、意見を出し合った。

④乳幼児教育目標の評価をどのように行っているか意見を出し合い、保育者同士で共有する機会と保護者が知る機会に分けた。

また、近年、精神障害を抱える子どもの数や本県の小学生以上の子どもの暴力行為、いじめ、不登校の子どもが増加している背景に乳幼児期のアタッチメント(愛着形成)の重要性が密接に関係している事にも着目した。そして園の教育理念や園長の考えを保護者に伝える際に、乳幼児期のアタッチメントや愛着形成の重要性を合わせて伝えられるよう例文を作成した。

### **改善策**

園の教育方針や教育目標を保護者に伝えられるようになるというテーマについては普段から行っている保育内容を本園の乳幼児教育目標を照らし合わせる作業を行ったことで、それらが一致していることに気が付いた。また説明をする際には、下記のような実際の保育内容と共に保護者に園の教育方針や教育目標を伝えると良い事に気が付いた。

基本的な生活習慣：着替え・挨拶・身支度・給食・早寝早起き朝ごはんカレンダー等

規範意識の芽生え：バスに乗って園外に出掛ける・友だちとのトラトラブル・ルールを守る・外部講師との関り等

豊かな感性と想像性：歌・製作・絵画・プール・米作り・DS交流・様々な行事等

また、アタッチメントや愛着形成が家庭の中で形成されている子は安心して園生活が送れたり自信を持ち様々なことにチャレンジできる為、保護者にも積極的に情報提供を行う必要性を感じた。実際に伝える際には、「園としては家庭の中でアタッチメントや安心の輪が形成されることでお子さんの成長を促すことが出来る」と考えている。何か分からないことがあれば、相談してください。協力します。」等と伝え、決して保護者を否定するのではなく、“園として子どもの成長には親子間の愛着形成が必要だと考えている”と伝えるようにする。そうすることで、卒園後も続く子どもたちの長い人生を支えていけるよう意識していきたい。

### 【B グループ】 グループディスカッションの内容

- ① まず説明の対象としてどのような相手を想定するかについて話し合った。その結果、「本園への入園を検討している保護者」対象の説明を想定し、グループディスカッションを進めていくこととした。
- ② 次に、園長より園の教育理念および教育方針について説明を聞いた。内容が多岐に渡るため、保護者に対して必ず伝えるべき内容と優先度が低い内容を整理・精査した。
- ③ 「本園への入園を検討している保護者」の立場を踏まえ、園の教育理念・教育方針について各メンバーが内容を整理した。その過程で、園の「乳幼児教育目標」についての説明が最も重要であり、重点的に伝えるべきであるという意見で一致した。
- ④ 乳幼児教育目標である「基本的な生活習慣」「規範意識の芽生え」「豊かな感性と創造性」のそれぞれについて、どのような保育内容が該当するかを具体的に考え、意見を出し合った。
- ⑤ これらの保育内容がすべて、子どもたちの長い人生を生きていく上での幸せにつながるものであること、園でしかできない経験や体験から得られる忍耐力や喜び、達成感、楽しさなどが幸せな感情を形成していく基盤となることを改めて共有・認識した。その上で、園の教育理念・教育方針について保護者に説明するための例文を作成した。

### 改善策

園の教育理念・教育方針を説明する例文を作成し、周知した。

「本園は幼保連携型認定こども園です。そのため、幼児教育と保育の機能を併せ持っています。幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うもので、保育は子どもの育ちを保障するものという役割を担っています。子どもの育ちを保障するという事は、子どもが幸せな状態をつくるもので、幼児教育の様々な経験を通して、喜び、うれしさ、楽しさなどの幸せな感情を感じることができます。これによって、これからの長い人生を生きる中で幸せにつながっていきます。本園では、それを基に「乳幼児教育理念」や「乳幼児教育目標」としており、様々な経験や体験ができるように保育を組み立てています。だからこそ、園でしかできない経験や体験から得られる忍耐力や喜び、達成感、楽しさなどが幸せな感情を育み、長い人生への幸せに繋がっていきます。そのため、保護者の皆さまにも協力をお願いすることもあります。一緒にお子さんの幸せのために力を合わせていきましょう。」

- ① 「乳幼児教育理念」や「乳幼児教育目標」など園で取り組んでいる内容だけを伝えるのではなく、保育で保証できる育ちは最低限のものであることや園と家庭が連携・協力していく必要があること、だからこそ、幼児教育と保育の中で子どもたちの体験や経験によって長い人生を生きる上での幸せにさらに繋がっていくことを伝えていく。
- ② まずは今回のグループディスカッションの内容を理解した上で、各保育者が今までの経験や思いをもとに、自信を持って正しく伝えられるよう意識していく

### 【C グループ】 グループディスカッションの内容

園長より園の教育理念および教育方針について説明を受けた。まず説明の対象として、どのような相手を想定するかについて話し合った。その結果、「本園への入園を検討している保護者」対象の説明を想定し、グループディスカッションを進めていくこととした。

- ① 園長より園の教育理念および教育方針について説明を受け、新入園児や入園を検討している保護者へ説明する事を想定してグループディスカッションを進めた。

- ②教育理念、教育目標に沿って園で保育者はどんなことをしてあげられるのか？現在どんなことをしてあげられているのか？自分たちの保育を振り返り事例を出し合った。
- ③各事例を乳幼児教育目標である「基本的な生活習慣」「規範意識の芽生え」「豊かな感性と創造性」にジャンル分けし、それらがきちんと出来ている事が保育者との愛着形成に繋がっていくことを再認識した。
- ④「幸せな状態」「幸せな感情」とはどういう事なのかを話し合った結果、園での取り組みだけでは不十分であるという認識で一致したため、説明の際にはどのような事を伝えるべきなのかを考えた。
- ⑤「幸せ」とは、園児にとって都合の良い状態や感情だけではなく時には我慢、忍耐力、自分をコントロールする力など非認知能力も必要だということを共有した。また、そのことを保護者にも具体的に伝えていく必要があるということが分かった。子どもにとって「大変」「辛い」「やりたくない」と感じる事も挑戦し乗り越えていく事で、その後の“幸せ”に繋がっていくということを保護者に理解して頂き、家庭と園とで連携を取りながら“長い人生の幸せ”の基盤作りをしていく。
- ⑥今回のポイントを各保育者がきちんと理解し、これまでの経験をもとに自分の言葉で分かりやすく説明できるように日々意識していく

### 改善策

- ①園の教育方針などの説明の際は子どもと保護者にとって良い部分ばかりを伝えて魅力を発信しがちだが、時には大変な思いをする事も必要だという事、でもそれは長い目で見た“幸せ”に繋がっていく事をポイントとして伝えていく。
- ②保護者へ実際に園の方針などを説明する経験の少なさが低評価へと繋がった要因でもある為、自信をもって実際の場面で説明ができるように今回グループで話し合った事を保育者がきちんと理解しておく。

### 【学校関係者評価委員会メンバー】（敬称略）

アドバイザー：東京福祉大学 特任准教授 鈴木美子

|       |                                  |          |                     |
|-------|----------------------------------|----------|---------------------|
| 笛木 隆  | 金城学園監事・元小学校長<br>元子ども若者支援センター指導主事 | 常山 利江    | 塩沢小学校校長             |
| 高橋 司  | 当園 PTA 会長                        | 森 輝久     | 当園 PTA 副会長          |
| 佐藤 佑紀 | 当園 PTA 副会長                       |          |                     |
| 事務局   | 角谷園長                             | 担当：瀬下副園長 | 担当：貝瀬教頭<br>木村主幹保育教諭 |

## 2、来年度へ向けて

### I 「保育の計画性」

園の教育理念・教育方針を説明する例文を作成し、毎年年度始めの職員会議で周知する。

「本園は幼保連携型認定こども園です。そのため、幼児教育と保育の機能を併せ持っています。幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うもので、保育は子どもの育ちを保障するものという役割を担っています。子どもの育ちを保障するという事は、子どもが幸せな状態をつくるもので、幼児教育の様々な経験を通して、喜び、うれしさ、楽しさなどの幸せな感情を感じることができます。これによって、これからの長い人生を生きる中での幸せにつながっていきます。本園では、それを基に「乳幼児教育理念」や「乳幼児教育目標」としており、様々な経験や体験ができるように保育を組み立てています。だからこそ、園でしかできない経験や体験から得られる忍耐力や喜び、達成感、楽しさなどが幸せな感情を育み、長い人生への幸せに繋がっていきます。そのため、保護者の皆さまにも協力をお願いすることもあります。一緒にお子さんの幸せのために力を合わせていきましょう。」

また、園の教育方針などの説明の際は子どもと保護者にとって良い部分ばかりを伝えて魅力を発信しがちだが、時には大変な思いをする事も必要だという事、でもそれは長い目で見た“幸せ”に繋がっていく事をポイントとして伝えていく。

#### 4、学校関係者の評価

- ・卒園式の練習を見て、入園式の姿を思い浮かべるとこの3年間でとても立派になったなと感じた。親の自分達が仕事をしている間に3年間教育して頂いた先生方のお陰だと思う
- ・園の理念を職員間で共有する、先生達一人ひとりが子ども達の長い人生の基盤を作って行こうとする責任、覚悟がある中で育ててもらっているということは非常にありがたい。保護者からしても安心して預けられる園だなと感じる
- ・今の時代企業も同じだが、働いている人の人生設計をどうしていくのかという部分を考えている企業が残っている。園でも小さい子の未来を考えながら作って行く責任をみんなで共有しているということに驚いている。それを毎年続けて行くということがこの先残っていく園なんだなと思った
- ・園児が減っている中で先生も大変だと思う。AI に変わってもらえるものではないので、先生も体調を整えて頑張ってもらいたい
- ・卒園式の様子を見て、「さすがさくら組だな！」と思うくらい立派だった。団結力があるクラスだなと感じた
- ・グループディスカッションのテーマがとても深いことに感動した。こんな話を職員全体で話せる集団であるということは先生達の力があるのだなと感じた。小学校勤務時代に教育目標について職員間で話し合ったことがあるが、ここまで話すことはできなかった。短い時間の中で小集団がそれぞれ話し合ったことがまとめられており、それを保護者をこういう説明をしようという文章を考えたことは素晴らしい。先生方それぞれの考えを出し合ったことをまとめたことが今回の資料となっており、金城幼稚園が目指すものはこれだ！ととても分かりやすくまとめられていた。
- ・今回のまとめをもう少し膨らませるとしたら、前段に“幸せな状態と幸せの感情について”を入れて、後段に“アタッチメントと安心の輪”を入れて組み合わせると3グループの良い所を伝えられるようになると感じた
- ・卒園式練習の姿にあった動かない、姿勢が良いなど当たり前のようにとても難しいこと。なかなか小学校でもできないが児童にも伝えていきたい
- ・園の経営方針について話し合うことは自分達がやっていることがどこへ繋がっているのかを考えることで自分のものになるのだと思う。職員の一体感が生まれたり職員のベクトルを同じ方向に向けられるようになるなど素晴らしいと感じる。それだけでも良いのに、さらに保護者にどう伝えていけば良いのかという部分まで掘り下げていることが素晴らしい。学校でも参考にしていきたい
- ・話し合う場を設けたことや園の教育理念を改めて実際の子ども達の姿がどうということかなど噛み砕いて話し合ったことに大事な意味がある。それを先生同士で生み出したということが素晴らしい
- ・自己点検・自己評価の取り組みを単年度だけではなく、積み重ねてきた年数分のダイジェスト版を読むだけでも園が大切にしている取り組みがよく伝わってくる。地域の方や採用された職員に読んでもらうことも園の理解に繋がるのではと感じた

#### 5、苦情解決結果

令和7年度は苦情がありませんでした。(3月17日現在)